

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・これから9月頃までインバウンドの入込が落ち着く時期ではあるが、円安が続いていることから、今後もインバウンドの客単価は堅調に推移することになる。また、国内客についても、全世代で旅行需要が活性化していること、海外旅行よりも国内旅行を希望する客が多いことから、今後の景気は上向くことになる。
	◎	旅行代理店（従業員）	・これから夏にかけて、北海道観光の繁忙期となる。インバウンドについては、まだ中国路線の便数がコロナ禍前の水準まで回復していないが、韓国、台湾を中心に増加が見込まれる。また、関東や関西の空港を経由して北海道を訪れる欧米客の増加も期待できる。
	◎	旅行代理店（従業員）	・旅行需要が上向いていることから、今後の景気はやや良くなる。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・このままインバウンドが好調に推移することで、旅客、車両の輸送量が伸びることになる。
	○	商店街（代表者）	・例年ゴールデンウィーク頃から、地域住民や周辺地域からの来街者が増える傾向にあることから、今後の売上アップが期待できる。外国人を含めた観光客についても増加が見込めるため、特に宿泊施設や交通関連、土産店の売上が伸びることになる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・大手企業で見込みを上回るベースアップの動きがみられること、中小企業の人手不足が深刻なことから、中小企業で働いている人からも、ある程度のベースアップを期待する声が多く聞かれる。このため、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・2月は冬型イベントの再開や春節の影響で、中華圏を中心にインバウンドの入込が増え、当店の売上も大きく伸びたが、3月に入ってから急激にインバウンドの動きが落ち込んでいる。ただし、4月以降、花見シーズンが到来する頃には、入込客が増えると思われるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（店長）	・前年の春シーズンはちょうど新型コロナウイルス感染症が5類に移行したタイミングであり、その時期と比べれば、消費が上向くと考えられる。
	○	スーパー（店長）	・雪解けに伴って客の行動範囲が広がることから、来客数が増えることになる。客単価が好調に推移していることもあって、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・連日、大幅な賃上げが報道されている影響で、客単価や買上点数が大きく伸びている。客が価格上昇を受け入れ始めている様子もうかがえるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・今後も現状の来客数や購買動向が維持できるとみられる。企業の賃上げ効果も期待できるため、景気は今以上に良くなる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・これから数か月、例年どおりの天候となることが期待できるため、景気はやや良くなる。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・販売量が気候次第で変わる状況から、景気が低迷しているわけではない。今後、気温の上昇に伴って、季節商材の販売量が増加することが期待できる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・受注停止や生産・出荷停止などの悪材料が徐々に改善されているため、今後の販売量は回復傾向に転じることになる。ただし、4月以降も様々な物価上昇が見込まれるため、高額商材の購買に影響が出てくることも懸念される。
○	乗用車販売店（従業員）	・今後については、売れ筋の新型車の販売が予定されているため、受注量は間違いなく増えることになる。既存車種で受注量をどれだけ上積みできるかがポイントとなってくる。	
○	乗用車販売店（従業員）	・一部改良車種の受注が4月から始まる予定であることから、車両の配車状況が改善されれば、売上が増加することになる。状況が好転しそうなことから、今後の景気はやや良くなる。	

○	住関連専門店（役員）	・3月後半からの気温上昇により、ガーデン関連やサイクル関連などを中心に、季節商材の販売量が伸びると期待できる。賃上げが進みつつあることも、購買意欲に好影響を与えることになる。
○	高級レストラン（スタッフ）	・地域のイベントが増えていることから、ゴールデンウィークを迎えて人の移動が活発になることが見込まれる。それに伴って、当店の来客数も増えると期待している。
○	観光型ホテル（経営者）	・旅行会社のキャンペーンにより、初夏にかけての集客が堅調に推移していることから、今後の景気は例年と比べてもやや良くなる。
○	旅行代理店（従業員）	・賃金が上昇傾向にあるなど、消費拡大の好循環サイクルに入ったとみられることから、今後の景気はやや良くなる。
○	観光名所（従業員）	・外国人観光客の入込が堅調なことに加えて、当地に寄港する予定の豪華客船の数も増加していることから、今後の景気はやや良くなる。様々な業界において、春からの賃上げが見込まれることで、ゆとり旅行が増えると期待できることもプラスである。
□	商店街（代表者）	・外国人観光客が減少に転じてきたことから、今後も景気は変わらない。ただし、これは季節要因によるものとみられるため、観光のオンシーズンを迎えば、景気は回復傾向に転じることになる。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・売上は大きく変わっていないものの、値上げの動きが相次いでいることから、客単価が低下している。そのため、今後も景気は変わらない。
□	一般小売店（経営者）	・円安の影響で価格改定が相次いでおり、今後の販売活動に影響が出てくることが懸念される。
□	百貨店（売場主任）	・ゴールデンウィークの人の動きは、前年よりも活発になると見込まれるものの、それ以外のプラス要因がないため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・物価の上昇を上回るような賃上げが行われない限り、景気は変わらないまま推移する。
□	スーパー（役員）	・物流の2024年問題の影響で、これから商品が本格的に値上がりすることが見込まれる。そのため、今後、消費者の節約志向がますます強まることになる。
□	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが進むなか、価格転嫁がうまくいったスーパーとうまくいかなかったコンビニで差が出始めている。今後も多くの客は価格優先で買物する店舗を決めるとみられるため、景気は変わらないまま推移する。
□	衣料品専門店（店長）	・仕事用のスーツの需要が回復傾向にあるものの、値上げに対する客の抵抗感が非常に強くなっている。今後については、販売量が多少増えたとしても、それほど売上が伸びないことが懸念される。
□	自動車備品販売店（店長）	・物価高のなか、春闘において賃上げの動きが進んでいるが、一部だけの動きのように見える。現実的には物価高のみが進んでいることから、今後の景気が良くなるとは考えにくい。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	・今後の景気は、お盆商戦を迎えて、付加価値の高い関連商材の購買につなげていけるかが課題となってくる。また、物流の2024年問題の影響が出てくることも懸念される。
□	高級レストラン（スタッフ）	・例年、気温上昇とともに売上が増加することを期待する時期だが、なじみの客が減るなど、客層が変わっていること、原材料価格の高騰で収益が減っていることから、今後の景気がどうなるか読みにくい状況にある。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・今後、客の動きは良くなると見込まれるものの、徐々に予約の勢いがなくなっていることから、例年よりも苦戦することも考えられる。
□	旅行代理店（従業員）	・今後も引き続き好調を維持すると見込んでいる。ただし、今以上に景気が良くなることは考えにくい。インバウンド需要の増加は期待できるものの、オーバーツーリズムの影響で内需が落ち込むことを懸念している。
□	旅行代理店（従業員）	・物価高、燃料価格の高騰、円安、貸切バス運賃の高騰などが解消されるような兆候がみられないため、今後の景気が良くなることは期待できない。

□	タクシー運転手	・例年、暖かくなり、雪がなくなると、タクシーの利用が減ることになる。ただし、前年10月頃から乗務員の採用が増え、タクシーの稼働台数が増えていることから、タクシー1台当たりの売上が冬期間よりも少なくなっても、会社の売上は前年を上回って推移することになる。
□	タクシー運転手	・客の様子から、今後、日中の来客数が減少するとみられる。一方、夜間の来客数はやや増えるとみられるため、全体としては変わらないまま推移する。
□	タクシー運転手	・乗務員の高齢化もあいまって、乗務員不足が顕著であり、厳しい状況にある。今後については、乗務員の採用に向けた施策が重要になってきている。
□	タクシー運転手	・ゴールデンウィークにかけて人の動きが活発になることで、回復に向けた動きが強まることを期待している。ただし、回復の度合いがどの程度になるのか、その動きを注視していきたい。
□	通信会社（企画担当）	・これから夏にかけて、競合に対抗できるような新しいサービスが余りないことから、今後も景気は変わらない。ただし、ポイントサービスに対する需要が改善することで景気が上向く余地はある。
□	観光名所（職員）	・大企業において5%程度の賃上げが行われる予定となっているが、国内の従業員の多くは中小企業で働いており、その賃上げ率は3%程度にとどまると報道されている。物価の上昇を上回るような賃上げとはなっていないことから、今後も景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	・関連商品の売上が減少していること、客の来店周期が伸びていることから、今後も客の節約志向が続くことになる。
□	住宅販売会社（経営者）	・住宅業界においては、資材の価格が下がるなど、動きが大分落ち着いてきたものの、金利上昇の影響で引き続き在庫の販売に時間が掛かることが見込まれる。
□	住宅販売会社（経営者）	・春闘での賃上げ率が予想よりも高く、客の所得が増加することが見込まれる。ただし、実需を中心としたマンション市場に賃上げの効果が出てくるのは、家計のやりくりが落ち着いてからになるため、もう少し先のことになる。
▲	商店街（代表者）	・物価高騰が進むなか、賃金の上昇による効果が全体に行き渡っていない。物価の上昇幅を上回る水準まで賃金が上昇するにはかなりの時間を要するため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	商店街（代表者）	・客の様子から、足元の景気が良くなるとは考えにくい。
▲	スーパー（店長）	・4月も値上げの動きが引き続きみられること、金利が上昇していることなどから、今後の景気はやや悪くなる。特に金利上昇の影響が気掛かりである。
▲	コンビニ（エリア担当）	・新年度を迎えて、消費者の所得が増えることになれば、消費の落ち込みに歯止めが掛かると期待できるが、中小企業従事者の所得はそれほど増えないことが見込まれるため、全体的には消費が落ち込むことになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・ここ2～3か月、値上げなどの要因がないにもかかわらず、たばこの売上が落ち込んでいる。たばこの集客力が落ちている分、今後の売上が見込みにくくなっている。
▲	家電量販店（店員）	・天候にも左右されることになるが、今後、エアコンの販売が落ち着き始めることから、景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・マイナス金利政策の解除が企業業績に影響を与えることになる。企業にとって、賃上げは避けられない状況であり、その分、設備投資や販管費を減らすことが懸念される。また、賃上げに伴って、個人消費が上向くことも余り期待できないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・3月で新車の受注残がほぼ解消されることになる。また、受注量も低い水準で推移していることから、今後の売上は減少することになる。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	・機能性表示食品に対する不安が高まっており、店頭での相談が増えている。正しい健康管理の考え方を顧客に指導できるチャンスと捉えたいが、今後への影響が懸念される。

	▲	タクシー運転手	・現在の株高、円安は、大企業などの一部の企業にとっては朗報であり、賃金の大幅アップにつながり、景気を押し上げる可能性がある。ただし、当地にその影響が波及してくるまで1年は掛かるとみられるため、今後も厳しい状況が続くことになる。
	▲	美容室（経営者）	・季節要因もあって、3月の売上はいつもよりも良かったが、今後の予約状況から景気は下向くとみられる。
	▲	美容室（経営者）	・子ども・子育て支援金制度による家庭の負担など、どうなるのかよく分からないことがあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・マイナス金利政策の解除によって、住宅ローンの金利にどの程度の影響が出てくるかによる。ただし、消費者マインドが先行して落ち込むことになれば、受注量に影響が出てくることになる。
	×	*	*
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	食料品製造業（従業員）	・スーパーなどに向けて、新たな商品を販売することになったため、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・土木、建築共に受注が進むことになる。量的には前年並みを見込み、秋口までは人手不足も余り発生しないため、例年どおりの工事環境になるとみられる。ただし、時間外労働の上限規制や資材価格上昇の影響が読めないことが気掛かりである。
	○	建設業（役員）	・新年度工事の入札及び受注について、順調なスタートを切っており、技術職員の現場配置も前倒しで進む見通しにあることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、賃上げや時間外労働の上限規制に伴って、人的投資を上回るような収益性の改善を進めていくことが今後の課題である。
	○	輸送業（支店長）	・雪解けに伴って、半導体関連の工場建設が本格化し、資材の輸送量が大きく増える見込みであることから、今後の貨物量は増えることになる。ただし、都市部の大型工事物件について、軒並み中止や延期が続いており、それに関連した資材の輸送量が落ち込むことが懸念される。
	○	通信業（営業担当）	・インバウンドの回復が続いていること、半導体関連企業の進出効果が期待できることに加えて、所得税の定額減税による効果も期待できるため、この先の当地の景況感は一上向きとなる。
	○	金融業（従業員）	・2年連続の賃上げの実現、2024年6月からの定額減税、燃料油価格激変緩和対策事業の継続などにより、個人消費の下支え効果が期待できる。また、円安の影響でインバウンドによる消費の増加も期待できる。
	○	広告代理店（従業員）	・大企業の賃上げによって大企業で働いている従業員の購買意欲が刺激され、その効果が地方の中小企業にも及び、好循環が生まれると期待している。
	○	司法書士	・新築建物登記の受注が増えていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・今後については、受注量の増加、受注単価の上昇が期待できることから、景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・民間工事の増加が期待できることから、今後の景気はやや良くなる。インバウンドの入込が増加傾向にあることもプラスである。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・価格転嫁について、社会全体がインフレ傾向にあり、取引先の理解を得やすい環境になっていることから、時間を要するものの、これから徐々に進んでいくと期待している。
	□	食料品製造業（従業員）	・価格改定が進んでおり、その進捗次第の面はあるが、今後、販売額は増加することになる。ただし、価格改定に伴って、買い控えが発生し、受注量が減ることも考えられるため、全体的な景気は今後も変わらない。
	□	建設業（従業員）	・経済が縮小傾向にあるとみられるが、実際に影響が出てくるのは半年以上先とみられるため、今後も景気は変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・今後、ドライバーの人手不足や働き方改革の影響で、商品の配送に遅れが生じることが懸念される。取引先から、集荷などの時短を要請されることも心配される。

	▲	金属製品製造業（従業員）	・金利が上昇気運にあることで、住宅着工棟数に悪影響を及ぼすことが懸念される。
	▲	司法書士	・現状から、景気が上向くことは余り期待できない。賃金がそれほど上がっていないにもかかわらず、国民負担の話題ばかりが先行している。電気料金などの生活負担が軽くなるような施策が行われない限り、景気は徐々に悪くなる。
	×	農林水産業（経営者）	・国内産のりんごの在庫が4月末にはなくなると見込まれることから、今後の景気は悪くなる。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	*	*
	□	人材派遣会社（社員）	・新年度を迎えて、企業が一層の事業拡大に踏み出すものとみられることから、営業力の強化に向けて、人材の採用が増えることになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足が顕著になりつつあるなか、募集媒体に対する求職者の反応が弱くなっている。中小規模の企業や店にとって、人材確保が難しくなっていることで求人数の減少につながっている面もある。これらのことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人を喚起するような大きなイベントがこの先も予定されていないことから、今後も景気は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・現状、企業は人材をどうにかやりくりできているが、将来的には人手不足の影響で、日常業務に支障が出てくることも考えられる。底が見えず、先が読みにくい状況にあり、当地の景気が一段と落ち込むことも懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・実質賃金について、物価上昇率を上回るような伸びがみられないことから、今後の景気は賃上げがどの程度進むかによって変わってくる。
	□	職業安定所（職員）	・有効求職者数が増加したものの、新規求職者数は減少に転じた。求人については、安定的に求人を公開している業況堅調な事業所もあれば、人手不足を感じながらも物価高騰などによる事業環境の悪化を懸念して求人を控えている事業所もみられる。求人数は減少しているが、それが必ずしも景気の悪化と結び付いているとはいえない状況にある。
	□	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は11か月連続で前年を下回っているものの、業種によってその度合いは異なっている。ただし、今後の物価上昇の動向、経済活動、消費行動の状況によっては、先を見通せない状態となることも懸念される。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・マイナス金利政策の解除により、地方都市においては、個人消費の落ち込みなど、マイナスの影響が出てくることが懸念される。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇の動きを受けて、企業が賃金を引き上げる動きがみられるが、賃金の上昇率としては不十分である。一方、体力のない中小企業は、高い賃金を支払うことができず、人材を確保できなくなることが懸念される。
×	—	—	